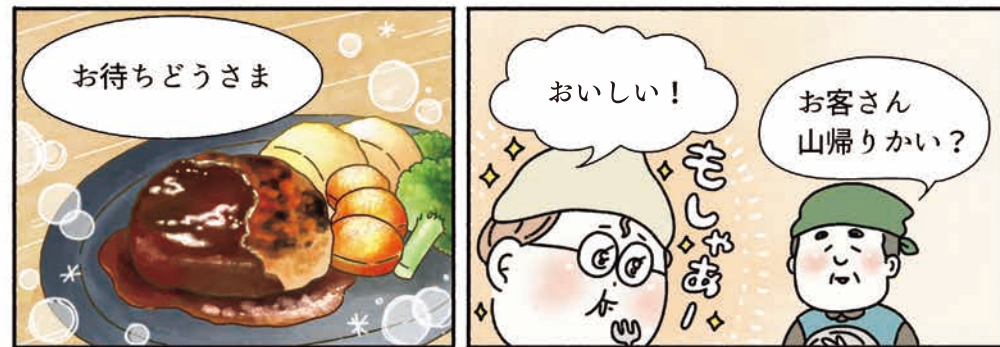




(※1) 気候変動: 気温や雨の降り方などが数十年を超える長期に渡って変化する現象のこと
 (※2) 森林が衰退すると土砂崩れや洪水などの災害が増えたり、生態系が崩れるなどの問題があります

(※3) ニホンジカやイノシシのように生息数が急増したり、生息域が拡大している鳥獣に対しては、捕獲をはじめとした「生息数や生息分布の適正管理」などの施策を地域の実情に応じて講じることが求められます。 参考 → https://www.env.go.jp/nature/choju/docs/docs5/imatora_fin.pdf



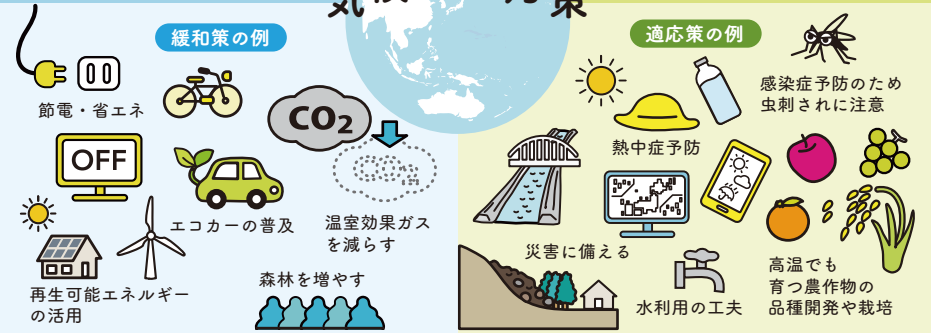


緩和とは? 2つの 適応とは?

原因を少なく

気候変動対策

影響に備える



気候変動による人間社会や自然への影響を回避するためには、温室効果ガスの排出を削減し、気候変動を極力抑制すること(緩和)が重要です。

緩和を最大限実施しても避けられない気候変動の影響に対しては、その被害を軽減し、よりよい生活ができるようにしていくこと(適応)が重要です。

「変わっていく環境で生きていく」それが適応

気候が変わっていく中で、私たちの生活も、少しずつ変わってきています。それは、森の風景や旅の楽しみ方など生活面だけでなくレジャーの面も含まれます。でも、その変化は、新しい観光の楽しさを見つけるきっかけにもなります。気候の変化とうまくつきあひながら、暮らしや旅を工夫して楽しんでいくこと——それが、地域の未来を守り、つないでいく「適応」への第一歩です。

気候変動の影響は、私たちの暮らしのさまざまなところに既に現れています。これまで広く知られてきた「緩和策」と呼ばれる、温室効果ガスの排出量を減らす努力などに加えて、これからの時代は既に起こりつつある気候変動影響に備える「適応」に取り組んでいくことが重要です。